

令和7年度

シラバス



商業科2年



国語		2
公民		6
数学		8
理科		10
保健体育		12
外国語(英語)		16
家庭		18
商業		20

入 学 年 度			令 和 6 年 度				備 考
学 年			1	2	3	計	
教 科	科 目	標準 単位					
各 学 科 に 共 通 す る 各 教 科 ・ 科 目	国 語	現代の国語	◎2	2			2
		言語文化	◎2	2			2
		論理国語	4		2	2	4
		文学国語	4		2	2	4
	地理歴史	地理総合	◎2	2			2
		歴史総合	◎2	2			2
	公 民	公共	◎2		2		2
		政治・経済	2			2	2
	数 学	数学Ⅰ	◎3	4			4
		数学Ⅱ	4		2	2	4
	理 科	科学と人間生活	◎2		3		3
		化学基礎	○2			▲2	▲2
		生物基礎	○2			▲2	▲2
	保健体育	体育	◎7～8	3	2	3	8
		保健	◎2	1	1		2
	芸 術	音楽Ⅰ	○2	□2			□2
		美術Ⅰ	○2	□2			□2
		書道Ⅰ	○2	□2			□2
	外国語	英語コミュニケーションⅠ	◎3	2	2		4
		論理・表現Ⅰ	2			2	2
	家 庭	家庭総合	◎4		2	2	4
	情 報	情報Ⅰ	2				
	科目単位数計			20	18	17	55
主 と し て 専 門 学 科 に お い て 開 設 さ れ る 各 教 科 ・ 科 目	商 業	ビジネス基礎	◇2～4	3			3
		課題研究	◇2～4			3	3
		総合実践	2～4			3	3
		マーケティング	2～4		4		4
		観光ビジネス	2～4			2	2
		簿記	2～4	3			3
		財務会計Ⅰ	2～4		☆4		☆4
		原価計算	2～4			■4	■4
		情報処理	◎2～4	2	2		4
		ソフトウェア活用	2～4		☆4		☆4
		ネットワーク活用	2～4			■4	■4
	科目単位数計			8	10	12	30
総探	福山みらい創業塾	◎3～6	2	2		4	
	キャリアプラン				1	1	
合 計			30	30	30	90	
特活	ホームルーム活動		1	1	1	3	
週当たり総時数			31	31	31	93	

鹿児島県立 福山高等学校 商業科		教科	国語		履修学年	2学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	「論理国語」		単 位 数			知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を工場させ、我が国の言語文化の担い手として自覚を深め、言葉を通して他者や社会にかかわろうとする態度を養う。 (4) 実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めること。					困			
教 材		使 用 教 科 書 東京書籍 新編論理国語 副 教 材 尚文出版 漢字パーフェクトクリア								
学習の内容	1 学期	4月	広がる世界	・筆者の主張を読み取り、自分に引き寄せて考えるとともに、論理的に考えることの意義を知る。		1 学期 中間	○	○	○	
		5月								
		6月	考える手がかり	・本文を論理的に読み取り、述べられていることに思いを巡らすとともに、考えを深める。		1 学期 期末	○	○	○	
		7月								
	2 学期	9月	人間性と知性	・文のつながりに着目して主張を読み取り、人間の思考や学ぶことの意義について理解を深める。		2 学期 中間	○	○	○	
		10月								
		11月	現実の中で	・文章構成に注意して筆者の考えを理解し、ものごとの本質について考える。		2 学期 期末	○	○	○	
		12月	ものの見方	・文章に示された考え方を手がかりに、ものごとの捉え方について理解を深める。			○	○	○	
	3 学期	1月	働くよこび	・楽しく働くとはどういうことかについての筆者の考え方を理解する。		学 年 末	○	○	○	
		2月								
3月										
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1)しっかりと活動に参加することが大事です。 (2)提出物は期限を守り,必ず提出しましょう。 (3)漢字の意味をしっかりと捉え,語彙力を高めるように努めましょう (4)ノートはしっかりと取り,その上で自分でわかりやすいようにまとめる工夫をしましょう。								
評価方法		(1) 知識・技能 (定期考査・小テスト・ワークシート) (2) 思考・判断・表現 (定期考査・ノート・ワークシート・作文・レポート・発表) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度・ノート・振り返りシート・課題への取り組み) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備考欄		週末課題も成績に考慮します。きちんと,取り組みましょう。 国語力は全ての教科の基本です。しっかりと取り組み力をつけましょう。								

教 科	国 語	科 目 名	論理国語
-----	-----	-------	------

知識・技能	到達目標	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	授業の内容を十分理解している。	授業の内容を理解している。	授業の内容を理解していない。
	授業	小テスト	十分に理解している。	理解している。	理解していない。
	授業	ワークシート	きちんとワークシートが記せている。	やや空欄はあるが、ワークシートが記せている。	ほとんどが空欄か、提出ができていない。
思考・判断・表現	到達目標	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	ノート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	ワークシート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	作文レポート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができたりしている。	自分の考えを記したり表現ができたりしていない。
	授業	発表	自分の考えを深く、表現豊かに発表している。	ある程度の長さで、自分の考えを発表できている。	自分の考えを発表できていない。著しく短い発表をしている。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業	ノート	板書事項をきちんと写し、自分なりにまとめている。	板書事項を写している。	板書事項を写せていない。
	授業	振り返りシート	単元の学習内容を振り返り、改善点を見いだしている。	単元の学習内容を振り返りできている。	単元の学習内容を振り返りできていない。
	提出物	課題提出物	完全に提出ができ、内容もきちんと記せている。	提出ができ、内容もある程度記せている。	提出ができない。内容が記せていない。
	授業	発表	発表内容を自らのものと捉え、次への発表へ活かそうとしている。	発表内容を自らのものと捉えられている。	発表内容を自身のものと捉えられていない。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 商 業 科		教科 科目名	国語 「文学国語」	履修学年 単 位 数	2学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
							知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 (4) 文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して表現したいことを明確にする。				1 学 期 中 間 1 学 期 期 末 2 学 期 中 間 2 学 期 期 末 学 年 末			
教 材		使 用 教 科 書 大修館書店 新編文学国語 副 教 材 尚文出版 ライトパーフェクト演習							
学習の内容	1 学 期	4月	明日をひらく	・筆者が大切だと考えていることをし、その考えと比較しながら自分の生き方について考えを深める。			○	○	○
		5月	小説を楽しむ	・場面の設定のしかたをとおして登場人物の心情を考える。 ・情景描写の効果を考えながら読む。			○	○	○
		6月	古典の世界	・話のおもしろさと教訓をとらえる。			○	○	○
		7月	詩を味わう	・詩に表された作者の心情を読み味わう。 ・詩のさまざまな表現と、その効果について考える。			○	○	○
	2 学 期	9月	名作を読む	・登場人物の生き方から、自分自身の生き方に関する考えを深める。 ・漢文訓読調の文章の魅力を味わう。			○	○	○
		10月	古典の世界2	・主人公の心情やその変化を読み取る。			○	○	○
		11月	社会に生きる	・小説を読む楽しさを味わう。 ・話に込められた寓意を読み取り、考えを深める。			○	○	○
		12月	表現を味わう	・さまざまな文章を読み、構成や表現の工夫を読み取る。			○	○	○
	3 学 期	1月	古典の世界3	・作品に表れている作者の感性をとらえる。			○	○	○
		2月 3月							
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1)しっかりと活動に参加することが大事です。 (2)提出物は期限を守り,必ず提出しましょう。 (3)ノートはしっかりと取り,その上で自分でわかりやすいようにまとめる工夫をしましょう。							
評 価 方 法		(1) 知識・技能 (定期考査・小テスト・ワークシート) (2) 思考・判断・表現 (定期考査・ノート・ワークシート・作文・発表) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度・ノート・振り返りシート・課題への取り組み) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)							
備 考 欄		週末課題も成績に考慮します。きちんと,取り組みましょう。 国語力は全ての教科の基本です。しっかりと取り組み力をつけましょう。							

教 科	国語	科 目 名	文学国語
-----	----	-------	------

知識・技能	到達目標	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	授業の内容を十分理解している。	授業の内容を理解している。	授業の内容を理解していない。
	授業	小テスト	十分に理解している。	理解している。	理解していない。
	授業	ワークシート	きちんとワークシートが記せている。	やや空欄はあるが、ワークシートが記せている。	ほとんどが空欄か、提出ができていない。
思考・判断・表現	到達目標	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができていたりしている。	自分の考えを記したり表現ができていたりしていない。
	授業	ノート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができていたりしている。	自分の考えを記したり表現ができていたりしていない。
	授業	ワークシート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができていたりしている。	自分の考えを記したり表現ができていたりしていない。
	授業	作文 レポート	自分の考えが深く記せ、表現豊かに記せている。	自分の考えを記したり表現ができていたりしている。	自分の考えを記したり表現ができていたりしていない。
	授業	発表	自分の考えを深く、表現豊かに発表している。	ある程度の長さで、自分の考えを発表できている。	自分の考えを発表できていない。著しく短い発表をしている。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業	ノート	板書事項をきちんと写し、自分なりにまとめている。	板書事項を写している。	板書事項を写せていない。
	授業	振り返りシート	単元の学習内容を振り返り、改善点を見いだしている。	単元の学習内容を振り返りできている。	単元の学習内容を振り返りできていない。
	提出物	課題 提出物	完全に提出ができ、内容もきちんと記せている。	提出ができ、内容もある程度記せている。	提出ができない。内容が記せていない。
	授業	発表	発表内容を自らのものと捉え、次への発表へ活かそうとしている。	発表内容を自らのものと捉えられている。	発表内容を自身のものと捉えられていない。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 商 業 科		教科 科目名	公 民 公 共		履修学年 単 位 数	2学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点			
学 習 の 目 標		現実社会の諸課題の解決に向け、自己と社会との関わりを踏まえ、社会に参画する主体として自立することや、他者と協働して、よりよい社会を形成していく力を養う。また、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会を形成する公民としての資質・能力を育成する。						知 識	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	
教 材		教科書「高等学校 新公共」 第一学習社 補助教材『新公共ノート』 第一学習社									
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	第1編 公共の扉 第1章 公共的な空間をつくる私たち ・青年期について理解し、自己のあり方や生き方について学ぶ。 ・社会に参画する自立した主体としてのあり方について学ぶ。				1 学 期 中 間	○	○	○	
		5月	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 ・環境保護や生命倫理の観点から、人間としてのあり方を学ぶ。 ・選択・判断の手がかりとなる倫理的価値について学ぶ。				1 学 期 期 末	○	○	○	
		6月	第3章 公共的空間における基本的課題 ・人間の尊厳と平等、民主政治の基本原則について学ぶ。 ・法と人権について学ぶ。					○	○	○	
		7月						○	○	○	
		2 学 期	9月	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち 第1章 法的な主体となる私たち ・日本国憲法の人権規定を学習し、さまざまな人権問題について学ぶ。 ・契約と消費者、国民としての司法参加の意義について学ぶ。				2 学 期 中 間	○	○	○
	10月		第2章 政治的な主体となる私たち ・選挙の意義と政治参加について学ぶ。 ・日本の政治のしくみについて学習する。 ・国際法と領土問題、日本の国際社会のあり方について学ぶ。				2 学 期 期 末	○	○	○	
	11月		第3章 経済的な主体となる私たち ・現代の経済のしくみと日本経済のこれまでとこれからについて学ぶ。 ・市場経済のしくみと経済と環境、国民福祉との関連性について学ぶ。 ・金融の意義や役割について学ぶ。					○	○	○	
	12月							○	○	○	
	3 学 期		1月	第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち ・環境問題、資源エネルギー問題、情報社会について学ぶ。 ・小論文の書き方を学び、実際に書いてみる。 ・地球規模における国際社会のこれからの課題について学ぶ。				学 年 末	○	○	○
			2月						○	○	○
			3月						○	○	○
	学 習 の 方 法 予 習 ・ 復 習 ノ ー ト 等		(1)教科書の本文や図表をよく読み内容を理解する。 (2)用語集などを活用し、不明な点はその都度調べる習慣をつける。 (3)常日頃から新聞やテレビなどをみて、授業に関係する事柄に興味を持つ。								
	評 価 方 法		(1) 知識・技能(授業態度、学習課題、考查等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題、考查等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題、考查等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄		※考查前後などで、適宜授業用ノート、演習ノートの提出を求めます。									

教 科	公 民	科 目 名	公 共
-----	-----	-------	-----

知識・技能	到達目標	現実社会の諸課題の解決に向け、自己と社会との関わりを踏まえ、社会に参画する主体として自立することや、他者と協働して、よりよい社会を形成していく力を養う。また、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会を形成する公民としての資質・能力を育成する。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書をしっかりと、授業用ノートにきれいにまとめることができる。	授業ノート提出 毎時のノート確認	板書をきれいにまとめることができた。	色使いができず、煩雑であり、まとめていない箇所があった。	全く板書をとらなかった（欠席も含む）。
	説明を聞いて、授業の内容を正しくと理解することができる。	定期考査（小テスト）	授業内容を正しく理解できた。	内容の理解に不足していた、内容がよく分らなかった。	全く理解できなかった（欠席も含む）。
思考・判断・表現	到達目標	・歴史的事象やそれらの因果関係について見通しをもって仮説を設定し、考察、まとめなどを行い、得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを表現できる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	グループワークに積極的に参加し、演習ノートを協力してまとめられる。	毎時間のコミュニケーションによるアウトプット、定期考査	積極的にグループワークに参加し、演習ノートを完成できた。	あまりグループワークに参加できず、演習ノートが不完全であった。	全くグループワークに参加できなかった。
	グループワークに積極的に参加し、歴史的因果関係や諸課題などについて話し合える。	毎時間のアウトプットとプレゼンテーション	グループワークに参加し、諸課題について課題解決が十分に図れた。	あまりグループワークに参加できず、課題解決や発表が不完全であった。	
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・歴史的事象やそれらの因果関係について主体的にかかわり、それらを探究しようとするとともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	今何をすべき時間なのかを考え、主体的に行動することができる。	毎時の授業態度（定期考査）	授業態度が良好で、自分が何をすべきかを明確な目標をしっかりと持って取り組んでいた。	授業態度が良好で、自分が何をすべきかを明確な目標を持って取り組んでいた。	授業態度が悪く、集中できていなかった（参加できなかった）。
	提出すべき課題を期限内にきちんと提出することができる。	課題， ノートなどの提出	提出物が良好で、期限をしっかりと守り自主的に取り組んでいた。	提出に不足があり、期限に迫られて（遅れて）提出していた。	全く提出できなかった。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 商 業 科		教科	数学		履修学年	二学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	数学Ⅱ		単 位 数			知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、事象を数学化したり、数学的に解釈し、表現・処理する技能を身につける。また、数学のよさを認識し、数学を活用しようとする態度、粘り強く考え根拠を示して判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返り、評価改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。								
教 材		使 用 教 科 書 新数学Ⅱ(東京書籍)								
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	式の計算	・3次式の乗法公式と因数分解、二項定理、 分数式の四則演算について学習する。			中 間 考 査	○		○
		5月	2次方程式	・複素数、複素数の計算、2次方程式の解、 解と係数の関係について学習する。				○	○	○
		6月	高次方程式	・多項式のわり算、因数定理、高次方程式に ついて学習する。			期 末 考 査	○	○	○
		7月	式と証明	・等式の証明、不等式の証明について学習する。				○	○	○
	2 学 期	9月	座標と直線の方程式	・直線上や平面上の点の座標、直線の方程式、 2直線の関係について学習する。			中 間 考 査	○	○	○
		10月								
		11月	円と方程式	・円の方程式や円と直線について学習する。			期 末 考 査	○		○
		12月	軌跡と領域	・軌跡や不等式の表す領域について学習する。				○	○	○
	3 学 期	1月	三角関数	・一般角、三角関数、加法定理、弧度法について学習する。			学 年 末 考 査	○	○	○
	学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 板書事項をノートにとり、自分なりにまとめましょう。 (2) 授業の目的をしっかりと理解し、疑問に思ったことはメモしたり、質問したりしましょう。 (3) 授業の内容を理解し、身の回りのことと関連づけて探究しましょう。 (4) 提出物は期限を守り、必ず提出しましょう。 (5) 授業を振り返り、次回へいかしましょう。							
評 価 方 法		(1) 知識・技能(授業態度、学習課題への取組、考査等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題への取組、考査等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題への取組、考査等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄										

教 科	数 学	科 目 名	数 学 II
-----	-----	-------	--------

知識・技能	到達目標	・事象を数学化したり，数学的に解決することができる。 ・事象を数学的な自分の考え方によって表現したり，処理する技能を身につけている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足でき	C (努力を要する)
	板書事項	ノート	内容を写し，自分なりにまとめることができた	内容を写すことができた	全く板書事項を写さなかった(欠席を含む)
	授業の内容	小テスト 定期考査	授業の内容を正しく理解できた	授業の内容をおおむね理解できた	全く理解できなかった
	課題の提出	週末課題 長期休業課題	課題の内容を正しく理解し，提出できた	課題の提出ができた	課題の提出ができなかった
思考・判断・表現	到達目標	数学的な事象について，どのような考え方が必要か自分の中で思考して，用いる定理や公式を判断し，実際に解決できる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足でき	C (努力を要する)
	授業の目的	ノート 小テスト 定期考査	授業の目的を理解し，それを発表できる	授業の目的を理解できた	全く理解できなかった
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・数学のよさを認識し，数学を活用しようとしている。 ・自分の答えが出るまで粘り強く考え根拠を示して判断しようとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足でき	C (努力を要する)
	授業の内容から疑問に思うこと，その答え	ノート	授業で詳しく扱わなかった内容に関して触れ，自分なりに分かりやすく表現をしている	授業で扱った内容を分かりやすく表現していた	特に独自性はなかった
	心がけたいことと授業の振り返り	振り返りノート	次回以降心がけたいことを今回の反省をもとに考えることができる	今回の授業の振り返りができた	振り返りが不十分である

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 商 業 科		教科	理科		履修学年	2 学 年	考 査 範 囲	評価の観点			
		科目名	「科学と人間生活」		単 位 数	3 単 位		知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	
学習の目標		自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察・実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。									
教 材		使用教科書： 東京書籍 科学と人間生活 副 教 材： 東京書籍 ニューサポート科学と人間生活									
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	序章 科学技術の発展	・科学技術の進歩・発展について学習する			1 学 期 期 末	○	○	○	
		5月	生命の科学	・ヒトの視覚と光による影響について学習する (実験 錯視の体験)				○		○	
		6月		・血糖濃度を調節するしくみについて学習する (実験 植物細胞の観察)				○	○	○	
				・体を守る免疫のしくみについて学習する				○	○		
				・遺伝子のはたらきについて学習する				○	○		
		7月	物質の科学	・リサイクルについて学習する				○		○	
	2 学 期	9月		・金属の性質について学習する (実験 合金の作成) (実験 金属のイオン化傾向)			2 学 期 中 間	○			
		10月		・プラスチックの性質について学習する (実験 プラスチックの性質)				○	○	○	
		11月	光や熱の科学	・光の性質について学習する (実験 光の反射・屈折・回折)			2 学 期 末	○	○	○	
		12月		・光の色と見え方について学習する (実験 簡易分光器の観察)				○		○	
		3 学 期	1月		・電磁波とその利用例について学習する			学 年 末	○		
			2月	宇宙や地球の科学	・身近な自然景観の成り立ちについて学習する				○		○
3月			・自然災害と防災について学習する			○	○				
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 板書事項をノートにとり、自分なりにまとめましょう。 (2) 授業の目的をしっかりと理解し、疑問に思ったことはメモをしたり、質問したりしましょう。 (3) 授業の内容を理解し、身の回りの自然現象と関連づけて探究しましょう。 (4) 提出物は期限を守り、必ず提出しましょう。 (5) 実験や発表などの活動には積極的に参加しましょう。 (6) 授業を振り返り、次回へいかしましょう。									
評 価 方 法		(1) 知識・技能(授業態度、学習課題・実験観察への取組、考查等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題・実験観察への取組、考查等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題・実験観察への取組、考查等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)									
備 考 欄											

教 科	理 科	科 目 名	科学と人間生活
-----	-----	-------	---------

知識・技能	到達目標	・自然の事物・現象に対する概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 ・観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書事項	ノート	内容を写し、自分なりにまとめることができた	内容を写すことができた	全く板書事項を写さなかった(欠席を含む)
	授業の内容	小テスト 定期考査	授業の内容を正しく理解できた	授業の内容をおおむね理解できた	全く理解できなかった
	実験の手順	レポート	手順をフローチャートや絵などでまとめることができた	手順をおおむね理解できた	全く理解できなかった
	実験結果の記録	レポート	実験結果を記録し、考察したことを整理できる	実験結果を記録できた	全く記録しなかった
思考・判断・表現	到達目標	・自然の事物・現象の中に見通しをもって課題や仮説を設定し、観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを表現できる。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の目的	ノート 発表 小テスト 定期考査	授業の目的を理解し、それを発表できる	授業の目的を理解できた	全く理解できなかった
	課題や仮説の設定	レポート 発表	課題や仮説を設定し、発表できる	課題や仮説を設定できる	課題や仮説を設定できない
	実験結果の考察	レポート 発表	実験結果の考察を行い、さらに法則へと導くことができる	実験結果を考察できた	全く考察できなかった
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・自然の事物・現象に主体的にかかわり、それらを科学的に探究しようとするとともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の内容から疑問に思うこと、その答え	ノート	授業で詳しく扱わなかった内容に関して触れ、自分なりに分かりやすく図などで表現をしている	授業で扱った内容を分かりやすく図で表現していた	特に独自性はなかった
	心がけたいことと授業の振り返り	レポート 振り返りシート	次回以降心がけたいことを今回の反省をもとに考えることができる	今回の授業の振り返りができた	振り返りが不十分である
	グループ学習	ノート レポート 発表	積極的に活動した	意見を聞くことができた	活動に参加しなかった

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 商 業 科		教科	保健体育		履修学年	2学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	体育		単 位 数			知 識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。								
教 材		使用教科書 〈大修館書店〉現代高等保健体育 副 教 材 〈大修館書店〉 現代高等保健体育ノート・ステップアップ高校スポーツ								
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	オリエンテーション			・授業の心得、体育館施設利用の説明		○	○	○
			集団行動			・集団行動のおもな行動様式を身につける		○	○	○
		5月	第2ラジオ体操			・第2ラジオ体操の動きを身につける		○	○	○
			体づくり運動			・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組むことができるようにする		○	○	○
		6月	球技Ⅰ・武道 選択	・ネット型（バレーボール・バドミントン）競技を行い、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする				○	○	○
		7月		・柔道では、勝敗を競ったり自己や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、得意技などを用いた攻防を展開することができるようにする				○	○	○
			体育理論			・運動・スポーツの学び方（①～③）		○	○	○
	2 学 期	9月	体づくり運動			・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組むことができるようにする		○	○	○
		10月	球技Ⅱ			・ゴール型（バスケットボール・サッカー）の競技を行い、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする		○	○	○
		11月	陸上競技			・長距離走の競技を行い、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、長距離走の技能を身につける		○	○	○
		12月	体育理論			・運動・スポーツの学び方（④～⑥）		○	○	○
3 学 期	1月	体づくり運動			・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組むことができるようにする		○	○	○	
	2月	球技Ⅲ			・ベースボール型、ゴール型の競技を行い、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする		○	○	○	
	3月									
学習の方法		・実技を伴う教科なので、体操服等に更衣して運動することが授業の原則です。								
予習・復習 ノート等		・体育理論は、講義形式です。教科書・ノート・プリント等を活用します。 ・ケガ等の特別な事情で運動ができない場合には事前に連絡をします。								
評 価 方 法		(1) 知識・技能（スキルテスト、学習課題、小テスト、ノート、プリント） (2) 思考・判断・表現（学習課題、レポート、ノート、プリント） (3) 主体的に学習に取り組む態度（授業態度、課題提出、ノート、プリント） 单元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行う A（十分満足できる） B（おおむね満足できる） C（努力を要する）								
備 考 欄		運動制限等がある場合には、教科担任に相談して学習に取り組むこと。								

教 科	保健体育	科 目 名	体 育
-----	------	-------	-----

知識・技能	到達目標	運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。			
	項目	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	運動の多様性や体力の必要性について理解する	レポート 小テスト	体の動かし方や用具の操作方法、運動の実践や生涯スポーツにつながる概念や法則などを理解している。	体の動かし方や用具の操作方法、運動の法則などを理解している。	体の動かし方や用具の操作方法、運動の法則などを理解していない。
	各種運動の技能を身に付ける	スキルテスト	各領域の特性や魅力に応じた、各領域における技能や攻防の様相、動きの様相を実践できている。	各領域の特性や魅力に応じた動きの様相を実践できている。	各領域の特性や魅力に応じた動きの様相を実践できていない。
思考・判断・表現	到達目標	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。			
	項目	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	運動を継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考する	レポート 学習カード	各領域における学習課題に応じて、これまでに学習した内容を学習場面に適用し、自己や仲間の課題に応じた解決ができる。	各領域における学習課題に応じて、自己や仲間の課題に応じた解決ができる。	各領域における学習課題に応じて、自己や仲間の課題に応じた解決ができていない。
	課題を発見し、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う	発表 話し合い活動	根拠を示したり他者に配慮したりしながら、言葉や動作などで即座に表したり、図や文章及び映像等を用いて筋道を立てて伝えることができる。	他者に配慮したり、言葉や動作などで表したり、図や文章及び映像等を用いて伝えることができる。	他者に配慮したり、言葉や動作などで表したり、図や文章及び映像等を用いて伝えることができていない。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。			
	項目	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	公正、協力、責任、参画、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てる	観察 レポート	運動を継続することの意義などを理解し、取り組むべき課題の解決の過程を示し、主体的に仲間との学習を進めることができる。	取り組むべき課題の解決の過程を示し、仲間との学習を進めることができる。	取り組むべき課題の解決の過程を示し、仲間との学習を進めることができていない。
	健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う	観察 ノート	段階的に運動をしたり、用具や場所の安全を確認し、環境の変化などを予見して危険を回避することができる。	用具や場所の安全を確認し、危険を回避することができる。	用具や場所の安全を確認し、危険を回避することができていない。

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 商 業 科		教科	保健体育		履修学年	2学年	1	考 査 範 囲	評価の観点		
科 目 名		保健		単 位 数	単 位	知 識 ・ 技 能			思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	
学習の目標		保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおりに育成します。									
教 材		使 用 教 科 書 〈大修館書店〉現代高等保健体育 副 教 材 〈大修館書店〉現代高等保健体育ノート									
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	オリエンテーション		・各ライフステージにおける健康課題についての学習 ・思春期や性に関する健康課題についての学習 ・結婚生活における健康課題についての学習 ・加齢における健康課題についての学習 ・働くことと労働災害についての学習 ・職業生活における健康課題についての学習			一 学 期 期 末	○	○	○
		5月	生涯の各段階における健康								
		6月	労働と健康								
		7月									
	2 学 期	9月	環境と健康		・環境汚染における健康課題①についての学習 ・環境汚染における健康課題②についての学習 ・環境の対策、産業廃棄物における健康課題についての学習 ・ごみ処理や上下水道における健康課題についての学習 ・食品の安全性についての学習 ・食品衛生にかかわる活動についての学習			二 学 期 期 末	○	○	○
		10月									
		11月	食品と健康								
		12月									
	3 学 期	1月	保健・医療制度及び地域の保健・医療健康		・保健サービス・医療サービスとその活用についての学習 ・医薬品の制度とその活用についての学習 ・国内外の保健活動や社会的対策についての学習 ・健康の保持増進の環境づくりについての学習			三 学 期 期 末	○	○	○
		2月	さまざまな保健活動や社会的対策								
3月		健康に関する環境づくりと社会参加									
学習の方法		・授業の中で、教科書、ノート、プリント、タブレット等を活用します。									
予習・復習 ノート等		・知識や理解だけにとどまらず、日頃の生活の中での実践へとつなげられるように取り組みます。 ・ノートの復習問題に取り組み、授業の振り返りを行います。									
評 価 方 法		(1) 知識・技能(学習課題、調査、ノート、プリント、レポート) (2) 思考・判断・表現(学習課題、調査、ノート、プリント、レポート) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、課題提出、ノート、プリント) 单元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行う A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)									
備 考 欄		※各学期末にノートの提出をもらい、取組状況を確認します。									

教 科	保健体育	科 目 名	保健
-----	------	-------	----

知識・技能	到達目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。			
	項目	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	生涯を通じる健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動	考查 レポート	生涯を通じる健康の各単元において、キーワードを理解し、社会的および環境への対策等を関連させることができる。	生涯を通じる健康の各単元において、キーワードを理解している。	生涯を通じる健康の各単元において、キーワードを理解できていない。
	健康を支える環境づくりについて、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動	考查 レポート	健康を支える環境づくりの各単元において、キーワードを理解し、社会的および環境への対策等を関連させることができる。	健康を支える環境づくりの各単元において、キーワードを理解している。	健康を支える環境づくりの各単元において、キーワードを理解できていない。
思考・判断・表現	到達目標	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。			
	項目	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	社会環境づくり 自、健康管理、安全管理、労働に関わる社会資源などを適切に活用	考查 レポート	事象や情報から課題を発見し、疾病リスク軽減、生活の質の向上などと、解決方法を関連付け、適切な方法を選択し、説明することができる。	事象や情報から課題を発見し、解決方法を考え、適切な方法を選択し、説明することができる。	事象や情報から課題を発見し、解決方法を考え、適切な方法を選択し、説明することができていない。
	課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考	考查 レポート	事象や情報から課題を発見し、疾病リスク軽減、生活の質の向上などと、解決方法を関連付け、適切な方法を選択し、説明することができる。	事象や情報から課題を発見し、解決方法を考え、適切な方法を選択し、説明することができる。	事象や情報から課題を発見し、解決方法を考え、適切な方法を選択し、説明することができていない。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。			
	項目	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	自他の健康やそれを支える環境づくりに関心を持ち、生涯を通じて健康の保持増進や回復を目指す	ノート 授業態度	各単元の学習に関心を持ち、キーワードや意味をまとめたり、話し合い活動等に積極的に参加している。	各単元の学習に関心を持ち、キーワードや意味をまとめている。	各単元の学習に関心を持ち、キーワードや意味をまとめていない。

教 科		外国語(英語)	科 目 名		英語コミュニケーション I
知識・技能	到達目標	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	授業の内容を十分理解している。	授業の内容を概ね理解している。	授業の内容を理解していない。
	授業	小テスト	十分に理解している。	概ね理解している。	理解していない。
	授業	ワークブック	きちんとワークブックに記入、解答できており、間違いの修正や書き直しもなされている。	一部空欄はあるが、ワークブックに記入、解答できている。	大部分が空欄か、提出ができていない。
	授業	パフォーマンステスト	簡単に正しい英語にまとめ、相手に伝えることができる。	概ね相手に伝えることができる。	Bを満たしていない。
思考・判断・表現	到達目標	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	自分の考えを記せ、英語を正確に用いて表現できている。	自分の考えを記したり、英語を概ね正確に用いて表現できている。	自分の考えを記したり、表現ができていない。
	授業	ノート	工夫しながら授業内容を記し、間違いの修正や書き直しもなされている。	授業内容を記している。	空欄が多く、授業内容を記せていない。
	授業	ワークブック	自分の考えを深く記せ、内容に工夫をして表現している。	自分の考えを記したり表現ができています。	自分の考えを記したり表現ができていない。
	授業	英作文レポート	自分の考えを深く記せ、表現豊かに記している。	自分の考えを記したり、表現ができています。	自分の考えを記したり、表現ができていない。
	授業	発表 プレゼンテーション	ある程度の長さで、自分の考えを深く、表現豊かに発表している。	ある程度の長さで、自分の考えを概ね発表できている。	自分の考えを発表できていない。 著しく短い表現・発表をしている。
授業	パフォーマンステスト	相手に伝わるような表現に言い換えたり、理解してもらえようようにしたりして、工夫して話している。	聞き手を意識しながら、概ね伝えられている。	Bを満たしていない。	
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、自主的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 ・知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力などを身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。 ・粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業	ノート	板書事項をきちんと写し、自分なりに工夫を加えながら分かりやすく整理し、まとめている。	板書事項を写している。	板書事項を写していない。
	授業	ワークブック	自分の考えを深く記せ、内容に工夫をして表現している。	自分の考えを記したり表現ができています。	自分の考えを記したり表現ができていない。
	授業	振り返りシート	単元の学習内容を振り返り、改善点を見だしている。	単元の学習内容を振り返りができている。	単元の学習内容を振り返りができていない。
	提出物	課題 提出物	期限内に完全に提出ができ、内容もきちんと記している。	提出ができ、内容も概ね記されている。	提出ができない。内容が記されていない。
	授業	発表	発表内容を自らのものと捉え、答えを導こうと努力している。	発表内容を自らのものと捉えられている。	発表内容を自身のものと捉えられていない。
	授業	行動観察	授業に根気強く真摯に臨もうとする意欲や姿勢が常に見られる。	授業に根気強く真摯に臨もうとする意欲や姿勢が見られる。	根気強く真摯に授業へ取り組む姿勢や意欲が欠けている。
授業	パフォーマンステスト	聞き手を意識しながら、相手に分かるように詳しく話そうとしている。内容を充実させている。	相手に伝わるように話そうとしている。	Bを満たしていない。	

教 科	外国語(英語)	科 目 名	英語コミュニケーションⅠ	
-----	---------	-------	--------------	--

知識・技能	到達目標	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	授業の内容を十分理解している。	授業の内容を概ね理解している。	授業の内容を理解していない。
	授業	小テスト	十分に理解している。	概ね理解している。	理解していない。
	授業	ワークブック	きちんとワークブックに記入、解答できており、間違いの修正や書き直しもなされている。	一部空欄はあるが、ワークブックに記入、解答できている。	大部分が空欄か、提出ができていない。
	授業	パフォーマンステスト	簡単に正しい英語にまとめ、相手に伝えることができる。	概ね相手に伝えることができる。	Bを満たしていない。
思考・判断・表現	到達目標	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	定期考査	定期考査	自分の考えを記せ、英語を正確に用いて表現できている。	自分の考えを記したり、英語を概ね正確に用いて表現できている。	自分の考えを記したり、表現ができていない。
	授業	ノート	工夫しながら授業内容を記し、間違いの修正や書き直しもされている。	授業内容を記している。	空欄が多く、授業内容を記せていない。
	授業	ワークブック	自分の考えを深く記せ、内容に工夫をして表現している。	自分の考えを記したり表現ができています。	自分の考えを記したり表現ができていない。
	授業	英作文レポート	自分の考えを深く記せ、表現豊かに記している。	自分の考えを記したり、表現ができています。	自分の考えを記したり、表現ができていない。
	授業	発表 プレゼンテーション	ある程度の長さで、自分の考えを深く、表現豊かに発表している。	ある程度の長さで、自分の考えを概ね発表できている。	自分の考えを発表できていない。著しく短い表現・発表をしている。
	授業	パフォーマンステスト	相手に伝わるような表現に言い換えたり、理解してもらえるようにしたりして、工夫して話している。	聞き手を意識しながら、概ね伝えられている。	Bを満たしていない。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、自主的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 ・知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力などを身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。 ・粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業	ノート	板書事項をきちんと写し、自分なりに工夫を加えながら分かりやすく整理し、まとめている。	板書事項を写している。	板書事項を写していない。
	授業	ワークブック	自分の考えを深く記せ、内容に工夫をして表現している。	自分の考えを記したり表現ができています。	自分の考えを記したり表現ができていない。
	授業	振り返りシート	単元の学習内容を振り返り、改善点を見いだしている。	単元の学習内容を振り返りができている。	単元の学習内容を振り返りができていない。
	提出物	課題提出物	期限内に完全に提出ができ、内容もきちんと記している。	提出ができ、内容も概ね記されている。	提出ができない。内容が記されていない。
	授業	発表	発表内容を自らのものと捉え、答えを導こうと努力している。	発表内容を自らのものと捉えられている。	発表内容を自身のものと捉えられていない。
	授業	行動観察	授業に根気強く真摯に臨もうとする意欲や姿勢が常に見られる。	授業に根気強く真摯に臨もうとする意欲や姿勢が見られる。	根気強く真摯に授業へ取り組む姿勢や意欲が欠けている。
	授業	パフォーマンステスト	聞き手を意識しながら、相手に分かるように詳しく話そうとしている。内容を充実させている。	相手に伝わるように話そうとしている。	Bを満たしていない。

鹿児島県立 福山高等学校 普通科・商業科		教科 科目名	家庭 家庭総合	履修学年 単 位 数	2学年 2単位	考 査 範 囲	評価の観点			
							知 識	思 考・ 判 断	主 体的 に学 習に 取り 組む 態度	
学習の目標		人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技能を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。					一 学 期	○	○	○
教 材		使 用 教 科 書： 大修館書店〔家総705〕 「Creative Living『家庭総合』で生活をつくろう」						○	○	○
		4月	はじめに 第1章 生活の マネジメント	・「家庭総合」をなぜ学ぶのか理解する。 ・様々な生き方があることを理解する。 ・生涯を見通した生活課題と意思決定の重要性を理解する。 ・生活資源を活用し、生活設計を工夫する。		○		○	○	
		5月	第2章 青年期 の課題と自立	・青年期の発達課題を達成するための生きかたを考える。						
		6月 7月	第9章 食生活 のマネジメント	・食生活を取り巻く課題、食と人との関わりについて理解する。 ・自己と家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付ける。 ・栄養の特徴、食品の栄養的特質について理解する。						
	2 学 期	9月 10月 11月	第9章 食生活 のマネジメント	・栄養の特徴、食品の栄養的特質について理解する。 ・食の安全と衛生について理解する。 ・おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について科学的に理解する。 ・日本と世界の食文化などについて理解する。 ・健康や環境に配慮した食生活について理解する。 ・日本の食文化の継承・創造について考える。		二 学 期		○	○	○
		12月	第8章 経済生 活のマネジメント	・消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や責任ある消費の重要性について理解し、生活情報の収集・整理が適切にできる。						
	3 学 期	1月	第8章 経済生 活のマネジメント	・消費者問題や消費者の自立と支援、契約の重要性や消費者保護の仕組みについて理解を深める。		学 年 末		○	○	○
		2月 3月	第4章 子どもの 生活と子育ての マネジメント	・乳幼児期の心身の発達と生活、子供の遊びと文化、親の役割と保育、子育て支援について理解を深める。 ・子供との適切な関わり方を工夫し、子供の発達に応じて適切に関わるための技能を身に付ける。						
	学習の方法 予習・復習 ノート等		(1)説明事項や板書は、必ずワークシートに丁寧に記入しまとめましょう。適宜、提出を求めます。 (2)発表や実習等などの活動には、積極的に参加しましょう。 (3)発問に対し意欲的に考え、聞き手に分かりやすく伝わるように努めましょう。 (4)小単元毎に授業の振り返りを行い、次の授業へ生かします。 (5)提出物は、必ず期限内に提出しましょう。							
評 価 方 法		(1) 知識・技能(定期考査,小テスト,実習・実験等) (2) 思考・判断・表現(定期考査,ワークシート,レポート作成,発表,実習・実験,作品製作等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業や課題に取り組む態度,振り返りシートの記述,教師による行動観察,授業中の発言,自己評価や相対評価等の状況等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA,B,Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄		・調理実習は、エプロン・三角巾を忘れずに持参してください。								

教 科	家 庭	科 目 名	家庭総合		
-----	-----	-------	------	--	--

知識・技能	到達目標	人の一生と家族・家庭及び福祉，衣食住，消費生活，衣食住などに関する基礎的・基本的な知識と技能を身につけている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	事実的な知識の習得	・小テスト ・定期考査	授業の内容を正しく理解している	授業の内容をおおむね理解している	あまり理解していない
	知識の概念的な理解	・定期考査 ・ワークシート記述	学んだ知識や技能を用い自分の言葉で記述している	学んだ知識や技能を用い記述している	学んだ知識や技能を用い記述できない
思考・判断・表現	到達目標	人の一生と家族・家庭及び福祉，衣食住，消費生活などについて課題を見だし，その解決を目指して思考を深め，適切に判断し，表現を工夫するなど，生活を創造する能力を身につけている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	課題を設定する	・定期考査 ・ワークシート記述 ・グループでの話し合い ・作品の制作や表現 ・自己評価や相互評価	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定している	生活の中から問題を見いだして課題を設定している	生活の中から問題を見いだして課題を設定できていない
	解決方法を検討し，計画，立案する		生活課題について多角的に捉え，実践に向けた計画を考え工夫している	実践に向けた計画を考え工夫している	実践に向けた計画を考え工夫できていない
	実践した結果を評価・改善する		問題点や改善策を具体的に記述し，評価・改善している	問題点や改善策を記述し，評価・改善している	問題点や改善策を記述し，評価・改善していない
	論理的に表現する		考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している	考察し表現している	考察し表現できていない
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	人の一生と家族・家庭及び福祉，衣食住，消費生活などについて関心を持ち，その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに，実践的な態度を身につけている。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	粘り強い取組を行おうとする	・ワークシートの記述 ・自己評価，相互評価	課題の解決に向けて見通しを持ち，粘り強く取り組んでいる	課題の解決に向けて見通しを持ち，粘り強く取り組もうとしている	課題の解決に向けて見通しを持ち，粘り強く取り組むことができていない
	自らの学習を調整しようとする	・振り返りシート	学習内容について具体的に記述があり，次の学びにつながる振り返りができている	感想部分にある程度の記述があり，振り返りができている	見通しが持てず，感想もあまり記述できなかった
	実践しようとする態度	・授業中の発言	発問に対して意欲的に考え，聞き手を納得させる根拠を持った発言をしている	発問に対して意欲的に考え，発言をしている	発問に対して考え，自分の意見を持とうとしない
		・教師による行動観察	学習に主体的に参加し，理解につなげている	学習に参加し，理解につなげようとしている	学習への取り組みが物足りず，理解しようという姿勢が乏しい

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 商 業 科		教科	商業		履修学年	2 学 年	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	財務会計Ⅰ		単 位 数	4 単 位		知 識 ・ 技 術	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、会計情報の提供と活用に必要な資質・能力を育成することを目指す。								
教 材		使 用 教 科 書 実教出版株式会社 新財務会計Ⅰ 補 助 教 材 等 演習用に上記会社出版の問題集を活用することがある。								
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	第1編 財務会計の基礎	・簿記と財務会計の違いを知る		1 学 期 中 間	○			
			・企業と会計・企業会計制度と会計法規	・企業会計、株式会社の制度を学習する			○			
			第2編 貸借対照表、あらまし	・貸借対照表の役割・区分・様式を理解する			○	○		
		5月	・資産の意味・分類・評価・流動資産	・資産の詳細を把握し、流動資産の性質を学習する			○	○	○	
			・有形固定資産	・有形固定資産の意味と減価償却について理解する			○	○	○	
		6月	・その他の資産・負債の意味と分類	・それぞれの意味、計算方法、負債の分類について学習する		1 学 期 期 末	○	○		
		・流動負債・固定負債	・それぞれの意味、分類について学習する		○		○			
	7月	・純資産の意味と分類	・純資産とはどんなものか、また分類について学習する		○		○			
	2 学 期	9月	自己株式、新株予約権	・意味を理解し適切な会計処理を学習する		2 学 期 中 間	○	○		
			貸借対照表の作成	・必要な資料を示し貸借対照表の作成する			○	○	○	
		10月	第3編 損益計算書のあらまし	・損益計算書の役割・区分・様式を理解する			○	○		
			損益計算の意味と基準	・損益計算時の基準について学習する		2 学 期 期 末	○	○		
			売上高・売上原価、 販売費及び一般管理費	・それぞれの意味を理解し、適切な会計処理を学習する			○	○		
		11月	営業外収益・費用、特別利益・損失	・それぞれの分類にあたる勘定科目を正確に把握する			○	○		
			損益計算書の作成、その他の財務諸表	・必要な資料を示した上で損益計算書の作成をする			○	○	○	
	12月	第4編 その他の会計処理 役務収益	・サービス業の企業の会計処理について学習する		○	○	○			
	役務原価、外貨建取引	・役務原価の意味を学ぶ、為替差損益の発生理由について学習する		○		○				
3 学 期	1月	税効果会計	・税効果会計の意味と会計処理を理解する		学 年 末	○	○			
		第5編 財務諸表のディスクロージャー	・ディスクロージャーの必要性について学習する			○	○	○		
	2月	財務諸表分析	・財務諸表分析の意味、方法、種類について学習する			○	○	○		
	3月	連結財務諸表のあらまし	・連結財務諸表の必要性と作成している企業を調べる			○	○	○		
学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 板書事項をノートにとり、自分なりにまとめましょう。 (2) 授業の目的をしっかり理解し、疑問に思ったことはメモをしたり、質問したりしましょう。 (3) 科目の特性上、計算の過程を残しておきましょう。 (4) 提出物は期限を守り、必ず提出しましょう。 (5) 発問への解答や発表、演習などに積極的に取り組みましょう。 (6) 授業を振り返り、次回へいかしましょう。								
評 価 方 法		(1) 知識・技術(授業態度、学習課題・演習への取組、考査等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題・演習への取組、考査等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題・演習への取組、考査等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄		・ 日頃から会計に関するニュースから情報を収集し、時事問題に関心を持つようにしましょう。								

教 科	商 業	科 目 名	財務会計Ⅰ	
-----	-----	-------	-------	--

知識・技術	到達目標	財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書事項	ノート	内容を写し、自分なりにまとめることができた	内容を概ね写すことができた。	板書事項を写すことが不完全である
	授業の内容	小テスト 定期考査	授業の内容を正しく理解できた	授業の内容をおおむね理解できた	内容が理解できなかった
	演習の手順	レポート	必要な資料・データを取り込み数式などを立てられた	必要な資料・データの意味を理解できた。	必要な資料・データの意味を理解しなかった。
	演習結果の記録	レポート	演習結果を記録し、考察したことを整理できる	演習結果を記録できた	結果通りの記録がおこなえなかった
思考・判断・表現	到達目標	企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法のの妥当性と課題を見いだし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業を分析する力を養う。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の目的	ノート 発表 小テスト 定期考査	授業の目的を理解し、それを発表できる	授業の目的を理解できた	全く理解できなかった
	課題や仮説の設定	レポート 発表	課題や仮説を設定し、発表できる	課題や仮説を設定できる	課題や仮説を設定できない
	演習結果の考察	レポート 発表	演習結果の考察を行い、さらに法則へと導くことができる	演習結果を考察できた	結果通りの考察がおこなえなかった。
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の内容から疑問に思うこと、その答え	ノート	授業で詳しく扱わなかった内容に関して触れ自分なりに確認し、図表にしていた	授業で扱った内容を分かりやすく図表で表現していた	特に独自性はなかった
	心がけたいことと授業の振り返り	レポート 振り返りシート	次回以降心がけたいことを今回の反省をもとに考えることができた	今回の授業の振り返りができた	振り返りが不十分である
	グループ学習	ノート レポート 発表	他人の立場に立って自分の発表、他の人の発表を総合的にレポートのまとめた	発表、他の人の意見を概ね聞いて意見を述べていた	自他の発表等において積極的に参加しなかった

鹿児島県立 福山高等学校 商業科		教科	商業		履修学年	2 学 年	考 査 範 囲	評価の観点			
		科目名	マーケティング		単 位 数	4 単 位		知 識 ・ 技 術	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	
学習の目標		商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、マーケティングに必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) マーケティングについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) マーケティングに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、マーケティングに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。									
教 材		使 用 教 科 書 実教出版株式会社 マーケティング 補 助 教 材 等									
学 習 の 内 容		1 学 期	4月	第1章 現代市場とマーケティング ①現代市場の特徴 ②マーケティングの概要 ・現代市場の特徴とその背景、マーケティングの全体像を理解します。			1 学 期 中 間	○	○	○	
			5月	第2章 市場調査 ①市場調査の意味 ②市場調査の手順 ③実態調査の方法 ④市場調査の実習 ・市場調査はマーケティング活動の出発点であることを理解させ、広範な内容を整理させるとともに、調査開始から報告までの手順を学びます。				○	○	○	
			6月	第3章 消費者行動			1 学 期 期 末	○	○	○	
			7月	①消費者行動と購買 ②購買意思決定過程 ③製品のライフサイクルと普及 ・消費者がどのような要因から購買するまでの意思の変化を学びます。							
		2 学 期	9月	第4章 販売計画 ①販売計画と販売予測 ②販売計画の立案・実施・統制 ・販売計画がマーケティング策定の前提となる事を理解させ、販売計画の流れを学習します。			2 学 期 中 間	○	○	○	
			10月	第5章 製品計画 ①製品計画の概要 ②製品ミックスと製品政策 ・製品計画の必要性とそれがもたらす影響を理解します。				○	○	○	
			11月	第6章 仕入計画と商品管理 ①仕入計画 ②商品管理 ・仕入計画の立案において重要な事を理解し、その手順を学びます。				○	○	○	
			12月	第7章 販売価格 ①販売価格の決定 ②価格戦略 ・価格の種類と構成・値入について学習し、需給関係がもたらす影響が価格決定の基本的なメカニズムになっていることを理解します。			2 学 期 期 末	○	○	○	
		3 学 期	1月	第8章 販売経路 ①販売経路の設定 ②販売経路の強化 ・販売経路の3つの類型と4種類の経路政策を理解するとともに、3種類のチェーン組織について学びます。			学 年 末	○	○	○	
			2月	第9章 販売促進							
			3月	①販売促進の重要性 ②広告 ③販売員活動 ④ブランド ⑤信用販売 ⑥その他の販売促進 ・販売促進活動の全体像を理解し、広告の種類や方法を学びます。 ・販売員に必要な一般的な資質や知識を学び、販売員管理の手順と訓練方法を理解します。 ・ブランドの意味や種類、機能を理解します。 ・信用販売の4つの基本的な形態を理解します。・準備から発表までの活動について理解する。				○	○	○	
			学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 板書事項をノートにとり、自分なりにまとめよう。 (2) 授業の目的をしっかりと理解し、疑問に思ったことはメモをしたり、質問したりしよう。 (3) 科目の特性上、情報機器の適切な扱い方を習得しよう。 (4) 提出物は期限を守り、必ず提出しよう。 (5) 発問への解答や発表、実習などに積極的に取り組みよう。 (6) 授業を振り返り、次回へいかしよう。						
評 価 方 法		(1) 知識・技術(授業態度、学習課題・実習への取組、考查等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題・実習への取組、考查等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題・実習への取組、考查等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)									
備 考 欄		・ 通信機器やソーシャルメディアを使用する際、情報モラルを厳守してください。 ・ 日頃からニュースなどに触れ、時事問題に関心を持つようにしましょう。									

教 科	商 業	科 目 名	マーケティング
-----	-----	-------	---------

知識・技術	到達目標	企業におけるマーケティング活動について、実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書事項	ノート	内容を写し、自分なりにまとめることができた	自分なりにまとめることができた	板書事項を写さず、まとめることができなかった(欠席を含む)
	授業の内容	小テスト 定期考査	授業の内容を正しく理解できた	授業の内容をおおむね理解できた	全く理解できなかった
	実験の手順	レポート	手順をフローチャートや絵などでまとめることができた	手順をおおむね理解できた	全く理解できなかった
	実験結果の記録	レポート	実習結果を記録し、考察したことを整理できる	実習結果を記録できた	全く記録しなかった
思考・判断・表現	到達目標	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるマーケティングの活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の目的	ノート 発表 小テスト 定期考査	授業の目的を理解し、それを発表できる	授業の目的を理解できた	全く理解できなかった
	課題や仮説の設定	レポート 発表	課題や仮説を設定し、発表できる	課題や仮説を設定できる	課題や仮説を設定できない
	実験結果の考察	レポート 発表	実習結果の考察を行い、さらに次時へと導くことができる	実習結果を考察できた	全く考察できなかった
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるマーケティングについて主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の内容から疑問に思うこと、その答え	ノート	授業で詳しく扱わなかった内容に関して触れ、自分なりに確認し、図表にしていた	授業で扱った内容を分かりやすく図表で表現していた	特に独自性はなかった
	心がけたいことと授業の振り返り	レポート 振り返りシート	次回以降心がけたいことを今回の反省をもとに考えることができる	今回の授業の振り返りができた	振り返りが不十分である
	グループ学習	ノート レポート 発表	積極的に活動した	意見を聞くことができた	活動に参加しなかった

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 商 業 科		教科	商業		履修学年	2 学 年	考 査 範 囲	評価の観点		
		科目名	情報処理		単 位 数	2 単 位		知 識 ・ 技 術	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度
学習の目標		商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業において情報を適切に扱うために必要な資質・能力を育成することを目指す。								
教 材		使 用 教 科 書 実教出版株式会社 情報処理 補 助 教 材 等								
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	3章 情報の集計と分析		・基礎のキー項目でデータの整列ができるように理解する。 ・フィルタ機能などを利用して、データの分類や整列、必要なデータの検索、抽出ができるように理解する。 ・抽出されたデータなどの意義などを理解する。 ・アルゴリズムを考案し、プログラムとして表現する ・問題の発見と解決について考察する方法を理解する。 ・ロジックツリー、PPM分析などを理解する。	1 学 期 中 間	○	○	○	
		5月	4節 情報の整列・検索・抽出				○	○	○	
		6月	5節 問題の発見と解決の方法			1 学 期 期 末	○	○	○	
		7月					○	○	○	
	2 学 期	9月	4章 ビジネス文書の作成		・コミュニケーションの重要な手段として、ビジネスの中で果たしている役割や種類について理解する。 ・文書の構成、構成要素の配置、文書作成の要領について理解する。 ・基本的な社内文書や社外文書を取り上げて、作成に関する知識と技術について理解する。 ・多様な機能を利用して、表やグラフなどを含む文書の作成に関する知識と技術について理解する。	2 学 期 中 間	○	○	○	
		10月	1節 ビジネス文書と表現				○	○	○	
		11月	2節 基本文書の作成			2 学 期 期 末	○	○	○	
		12月	3節 応用文書の作成				○	○	○	
	3 学 期	1月	5章 プレゼンテーション		・プレゼンテーションソフトについて理解する ・プレゼンテーション方法の違いについて理解する 2節 ビジネスにおけるプレゼンテーション ・準備から発表までの活動について理解する。	学 年 末	○	○	○	
		2月	1節 プレゼンテーションの技法				○	○	○	
		3月	2節 ビジネスにおけるプレゼンテーション				○	○	○	
	学習の方法 予習・復習 ノート等		(1) 板書事項をノートにとり、自分なりにまとめましょう。 (2) 授業の目的をしっかり理解し、疑問に思ったことはメモをしたり、質問したりしましょう。 (3) 科目の特性上、情報機器の適切な扱い方を習得しましょう。 (4) 提出物は期限を守り、必ず提出しましょう。 (5) 発問への解答や発表、実習などに積極的に取り組みましょう。 (6) 授業を振り返り、次回へいかしましょう。							
評 価 方 法		(1) 知識・技術(授業態度、学習課題・実習への取組、考査等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題・実習への取組、考査等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題・実習への取組、考査等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA, B, Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
備 考 欄		・ 通信機器やソーシャルメディアを使用する際、情報モラルを厳守してください。 ・ 日頃からニュースなどに触れ、時事問題に関心を持つようにしましょう。								

教 科	商 業	科 目 名	情報処理
-----	-----	-------	------

知識・技術	到達目標	企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書事項	ノート	内容を写し、自分なりにまとめることができた	内容を写すことができた	全く板書事項を写さなかった(欠席を含む)
	授業の内容	小テスト 定期考査	授業の内容を正しく理解できた	授業の内容をおおむね理解できた	全く理解できなかった
	実習の手順	レポート	手順をフローチャートや絵などでまとめることができた	手順をおおむね理解できた	全く理解できなかった
	実習結果の記録	レポート	実習結果を記録し、考察したことを整理できる	実習結果を記録できた	全く記録しなかった
思考・判断・表現	到達目標	企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の目的	ノート 発表 小テスト 定期考査	授業の目的を理解し、それを発表できる	授業の目的を理解できた	全く理解できなかった
	課題や仮説の設定	レポート 発表	課題や仮説を設定し、発表できる	課題や仮説を設定できる	課題や仮説を設定できない
	実習結果の考察	レポート 発表	実習結果の考察を行い、さらに法則へと導くことができる	実習結果を考察できた	全く考察できなかった
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の内容から疑問に思うこと、その答え	ノート	授業で詳しく扱わなかった内容に関して触れ自分なりに確認し、図表にしていた	授業で扱った内容を分かりやすく図表で表現していた	特に独自性はなかった
	心がけたいことと授業の振り返り	レポート 振り返りシート	次回以降心がけたいことを今回の反省をもとに考えることができる	今回の授業の振り返りができた	振り返りが不十分である
	グループ学習	ノート レポート 発表	積極的に活動した	意見を聞くことができた	活動に参加しなかった

鹿 児 島 県 立 福 山 高 等 学 校 商 業 科		教科	商業		履修学年	2 学 年	考 査 範 囲	評価の観点			
		科目名	ソフトウェア活用		単 位 数	4 単 位		知 識 ・ 技 術	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	
学 習 の 目 標		商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業において情報を適切に扱うために必要な資質・能力を育成することを目指す。									
教 材		使 用 教 科 書 実教出版株式会社 ソフトウェア活用 補 助 教 材 等 それぞれの単元で適宜必要な資料を加えることがある									
学 習 の 内 容	1 学 期	4月	1章 企業活動とソフトウェア活用 1節 ビジネスにおけるソフトウェアの活用 ・ソフトウェアの意義と重要性を理解する。 2節 ビジネスにおけるソフトウェアの進化 ・社会で利用されているソフトウェアの実例の重要性 2章 情報通信ネットワークの 活用 を理解する。				1 学 期 中 間	○	○	○	
		5月	1節 情報通信ネットワークの導入と運用 ・ソフトウェアの進化が、社会の変化に与える影響を 2節 情報資産の保護 考え、関連する知識を身に付ける。 ・Society5.0について考察し、ソフトウェアの 活用例と目的を理解する。				1 学 期 期 末	○	○	○	
			6月	3章 表計算ソフトウェアの活用 1節 表計算ソフトウェアを用いた ・表計算ソフトウェアを通して、分析結果を適切に 情報の集計と分析 表現する能力を身に付ける。 2節 表計算ソフトウェアを用いた ・オペレーションズ・リサーチの基礎を理解し、 オペレーションズ・リサーチ 適切な手法を活用する技術を身に付ける。				○	○	○	
		7月	3節 手続きの自動化 ・マクロの記録機能を理解する。				2 学 期 中 間	○	○	○	
		2 学 期	9月	4章 データベースソフトウェアの活用 1節 ビジネスとデータベース ・データベースの特徴や基本的な機能を理解する。 2節 データベースの作成と操作 ・活用するための知識と技術について理解する。				○	○	○	
			10月	3節 手続きの自動化 ・フォームを用い、手続きを登録する方法を理解する。 4節 データベースの構造 ・構造を理解し、表を正規化するための手順を理解する。				○	○	○	
				5節 SQLの操作 ・SQLを用いデータベースの操作方法について理解する。	○	○		○			
	3 学 期		11月	5章 業務処理用ソフトウェアの活用 1節 グループウェアの活用 ・利点と、活用した業務を行う方法について理解する。 2節 販売管理ソフトウェアの活用 ・利点と、活用した業務を行う方法について理解する。				2 学 期 期 末	○	○	○
		12月	3節 給与計算ソフトウェアの活用 ・利点と、活用した業務を行う方法について理解する。				○		○	○	
		3 学 期		6章 情報システムの開発 1月 1節 システム開発の基礎 ・情報システムの基礎的な知識、技術について理解する 2月 2節 アルゴリズムの基礎 ・基礎的な技術や、必要な関連する知識、技術を身に付ける。 3月 3節 情報システムの開発演習 ・簡易なシステムの開発を通して、改善を科学的な根拠に 基づいて、主体的かつ協働的に取り組む姿勢を身に付ける。				学 年 末	○	○	○
								○	○	○	
							○	○	○		
	学 習 の 方 法 予 習 ・ 復 習 ノ ー ト 等		(1) 板書事項をノートにとり、自分なりにまとめましょう。 (2) 授業の目的をしっかり理解し、疑問に思ったことはメモをしたり、質問したりしましょう。 (3) 科目の特性上、情報機器の適切な扱い方を習得しましょう。 (4) 提出物は期限を守り、必ず提出しましょう。 (5) 発問への解答や発表、実習などに積極的に取り組みましょう。 (6) 授業を振り返り、次回へいかしましょう。								
	評 価 方 法		(1) 知識・技術(授業態度、学習課題・実習への取組、考査等) (2) 思考・判断・表現(授業態度、学習課題・実習への取組、考査等) (3) 主体的に学習に取り組む態度(授業態度、学習課題・実習への取組、考査等) 単元ごとに、到達度に応じて(1)～(3)にA、B、Cの評価を行います。 A(十分満足できる) B(おおむね満足できる) C(努力を要する)								
	備 考 欄		・ 通信機器やソーシャルメディアを使用する際、情報モラルを厳守してください。 ・ 日頃からニュースなどに触れ、時事問題に関心を持つようにしましょう。								

教 科	商 業	科 目 名	ソフトウェア活用
-----	-----	-------	----------

知識・技術	到達目標	企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	板書事項	ノート	内容を写し、自分なりにまとめることができた	内容を写すことができた	全く板書事項を写さなかった(欠席を含む)
	授業の内容	小テスト 定期考査	授業の内容を正しく理解できた	授業の内容をおおむね理解できた	全く理解できなかった
	実習の手順	レポート	手順をフローチャートや絵などでまとめることができた	手順をおおむね理解できた	全く理解できなかった
	実習結果の記録	レポート	実習結果を記録し、考察したことを整理できる	実習結果を記録できた	全く記録しなかった
思考・判断・表現	到達目標	企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の目的	ノート 発表 小テスト 定期考査	授業の目的を理解し、それを発表できる	授業の目的を理解できた	全く理解できなかった
	課題や仮説の設定	レポート 発表	課題や仮説を設定し、発表できる	課題や仮説を設定できる	課題や仮説を設定できない
	実習結果の考察	レポート 発表	実習結果の考察を行い、さらに法則へと導くことができる	実習結果を考察できた	全く考察できなかった
主体的に学習に取り組む態度	到達目標	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。			
	場 面	評価方法	A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
	授業の内容から疑問に思うこと、その答え	ノート	授業で詳しく扱わなかった内容に関して触れ自分なりに確認し、図表にしていた	授業で扱った内容を分かりやすく図表で表現していた	特に独自性はなかった
	心がけたいことと授業の振り返り	レポート 振り返りシート	次回以降心がけたいことを今回の反省をもとに考えることができる	今回の授業の振り返りができた	振り返りが不十分である
	グループ学習	ノート レポート 発表	積極的に活動した	意見を聞くことができた	活動に参加しなかった

